

# 井戸端だより

第64号

発行日：2008.12.22

発行：くらしの学習会

アメリカの金融危機に端を発した、世界を、そして日本を襲った経済危機。円高、株安。特に堅実経営で有名なトヨタの想像を絶する急激な落ち込みにショックを受けています。リストラ、派遣切り、内定取り消し・・・雇用不安も増すばかりです。日本経済はどこまでこの先落ちていくのでしょうか。暗い年末に、来年は少し希望の光が見えることを祈りつつ、64号の会報をお届けします。読んでいただき、何かを感じていただければ幸いです。



## 目次

・10月例会報告	.....P.2~3
・愛媛新聞 吉田初三郎 関連記事	.....P.4
・11月例会報告	.....P.5~6
・12月例会報告	.....P.7
・政府(行政)を選ぶ権利と義務	.....P.8~9
・なぜ増える罪人	.....P.10
・年の瀬に	.....P.11
・日本語ボランティア講座に参加して	.....P.12
・雑感	.....P.13~16
・普段着の運動会	.....P.17
・甲斐工房レストランに行ってみて	.....P.18
・神戸ルミナリエ	.....P.19
・お知らせ・編集後記	.....P.20

## 10月例会報告

10月22日（水）『蝶のくる庭』監修者でもある楠 博幸先生のお話を久し振りに聞きたいと『南日本自然史博物館』を会員7名で訪れました。様々な木々に囲まれた以前のお宅（新石手）は、夏は涼しく冬は葉っぱが落ち日光が照り暖かくエコなお宅で、私は庭の中央にあった朴の木が今も印象深く脳裏に残っています。残念ながら道路拡張で現在の場所に移転、3階建ての住宅兼の施設を建設し館長として活躍されています。

玄関脇に亜熱帯植物ピロウが大きく育ち迎えてくれました。主に2・3階・屋上にきちんと分類され展示されています。展示品はほとんど先生ご自身が国内外へ出かけ収集されたもので、

昆虫類（蝶類・甲類・トンボ等）約15万種

海の生物（貝・サンゴ等）約15万種

植物の化石 約1万点 岩石・鉱物 約1万点

個人的所蔵品とは思えない展示に圧倒されます。

愛媛県立博物館に勤務しながら、夏は昆虫・海の生物収集に、海外や沖縄奄美・屋久島など南日本中心に出かけ、冬は石収集に、久万横野川・四国中央市関川・赤石山系に出かけたそうです。それらを分類・整理をし、わかりやすく展示するまでの作業に先生の人生の大半を費やされた作品は一つ一つが先生にとって宝物なのでしょう。見学をしながら専門家の先生に失礼ながら初歩的な質問をしてみました。「蝶と蛾の見極め方を教えて下さい」への答えは、触覚の違いで分かるそうで、

蝶 触覚の先がふくらんでいる（こん棒状）

蛾 くし状・羽状・糸上（先細になる）

早速、展示品を見てみると一目瞭然、その場で即解決でした。

今、楠先生が力を入れている事として、先生の父上が大正～昭和初期にかけ収集された浮世絵パノラマ地図（現在の観光マップの様）その作品は、吉田初三郎を中心とした人々が日本全国に渡り描いた美しい烏かん図で、それらを見ると、現在とその時代との海岸線や川の変容を見て取る事が出来、貴重な資料になり得る物として多くの人に見てもらえる様にパネル展の企画を考えているそうです。

屋上に上がるとここにもたくさんの石の標本が並べられていて、ここからの景色もなかなかのもので、石手寺の背の山に建てられた弘法大師像のお顔が見え思わず手を合わせてしまいました。新石手の家から道路開発によって現在の場所に移り先生の生活も様変わりされたと同時に、松山市内の大切にしたい物が徐々に消えてしまっている現実を嘆いておられた話に、消えかけそうな自然を先生と共に巡りたいと思いました。アッという間に3時間近い時間が過ぎ、次の機会のお約束をし博物館を後にしました。

『南日本自然史博物館』 夏場・冬場は休館しています。出来れば訪れる際にはご連絡をしてから出かけられる事をお勧め致します。

10月は例会以外で「くらしの学習会」のメンバーとの交流が三度もありました。10月4日(土)高知在住の丸井さんが久しぶりに愛媛に来られ時間を取って下さったので林宅に集い、高知でのお元気な様子を色々と聞かせていただき交友を暖めました。10月14日(火)Oさん所蔵の白形氏の水彩画を觀賞し大門東池のお散歩を楽しみました。10月31日(金)鷹の子駅の側にあるアンティーク リッチモンドで優雅なティータイムを楽しみました。時間のある人がその都度6~8人集まり楽しい一時を過ごすことができました。

A. M



特別切符に印刷された宇和島自動車路線鳥瞰図



# バスに行く道 鮮やか一望 宇和島自90年記念切符

2008年12月9日(火)

## 1953年作成の 南予一円遠く富士山も 鳥瞰図印刷

緑の山々を越え南予一円に広がるバス路線の鮮やかな構図。遠くに本州の影も望めるこの絵は、宇和島市錦町の宇和島自動車本社に飾ってあるユニークな路線鳥瞰(ちようかん)図(縦百十六センチ、横三百四十三センチ)。同社は創立九十周年を記念し、バス事業の歴史の一端を知ってもらおうと、同図などを印刷した特別切符(三百円)をこのほど発行した。

この図は、「大正の点しか確認されておろの路線だった東予方面広重」と呼ばれ全座の「す重」と評価。二年も入っている。室戸岬パノラマ観光案内図を前に同博物館企画展で、や大分県別府市のほか描いた画家・吉田初三郎(二八八四―一九五五年)が同社の依頼をなかつた。受け一九五三年に作 大胆にデフォルメし成。県歴史文化博物館にている図には、宇和島の井上淳専門学委員は、市を中心に松山市や高知(肉筆の図は県内に三知県宿毛市、貨物運送



宇和島自動車本社に展示している 吉田初三郎肉筆の路線鳥瞰図

じられる。井上専門学委員は「広域的に描いた力の入った作品」と話している。

特別切符は路線鳥瞰図と、昭和初期の乗合自動車(六人乗り)や昭和三十年代の営業所の写真を配した二種類の写真が二枚付いている。それぞれ三十枚作り、各営業所窓口などで販売中。

愛媛新聞 2008.12.7

## 11 月例会報告（久万高原町：甲斐工房さん訪問）

11月12日（水）、秋晴れの透明な空気とこもれびの中、甲斐さんにお会いした。柚人の風情をただよわせ、はじめてお会いしたはずなのになぜかなつかしい感じ。息子さんとお仕事中のところ、いろいろお話をうかがった。

甲斐さんが作業機に向かう。ろくろのように回転する機械に、これから作ろうとする器をはめ、刃物をあてて削るのだが、この刃物は自分で作られたそうだ。木工をするのには、まず鍛冶から学ばなければならないとのこと。初めて知った。うなり声をあげながら木肌が削られていくのは、見ていると楽しい。でも、少しでもぶれると軸がくるってしまい、器はゆがんでしまう。「これ、簡単そうに見えるでしょ。でもね、簡単そうに見えることほど、やってみると難しいんだよ。」……この言葉、深い。

漆を塗るのは、主に奥様が担当されているが、漆の乾燥には湿気があるので気温の高いころは大変とのこと。

漆には、殺菌作用がある。漆を塗った弁当箱は、腐りにくく、まさに先人の知恵。

「せっかく高価な漆のお碗を買ったのに、お汁を飲もうとしたら、なにか臭いがきつくて飲めなかった。これはどういうことか。」と、会員の一人が質問。漆の成分に問題があるのではないかと、持ってきたら塗りなおしてあげると言っていた。

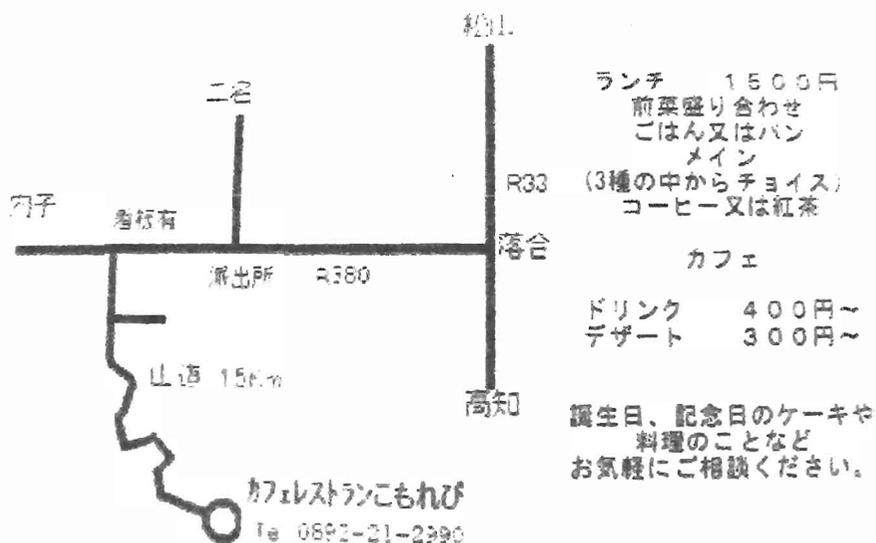
これら木や漆のお話をうかがった後、ご自宅へ。作品を展示したお部屋を見せていただいた。甲斐さんの漆器の他、お友達の陶芸家：前村幸孝さんの作品も並んでいた。どれもシンプルで暖かく、センスのよいものばかり。私たちはため息をつきながら、「これ素敵ねえ、ああ、これもいいね。」と、すっかり作品の魅力にとりつかれてしまった。私は迷った末、甲斐さんのコーヒーカップ、スプーン、皿のセットと前村さんの急須を購入した。急須は、その日の夕食時からずっと使っている。陶器なので、使い込むほどにどんな色に変わっていくか楽しみだ。コーヒーセットもよく活躍している。軽く、木独特のぬくもりがあり、口当たりがやさしい。それに、木のものは最後は自然にかえる。命のめぐりのようなものを感じながら、おいしいコーヒーをいただいている。

また、甲斐さんの娘さんがされているレストランを、休日にもかかわらず見せていただいた。テーブルはもちろん甲斐さん製、木目をいかし、川

魚や葉っぱの柄を組み込んだとてもナチュラルなものだ。素材にも調味料にもこだわった手作りのお料理をつくっていらっしゃる。次回甲斐さんを訪問する際は、ぜひこのレストラン「こもれび」でランチをいただこうという意見に皆賛成した。

参加した中に、ご主人の退職を機に九州で新生活を始めようと考えている会員がいたのだが、その会員へのアドバイスとしてこうおっしゃった。「自分がいいところにするんだよ。」・・・甲斐さんご自身、東京から愛媛へと新天地を切り拓いてこられた方だった。愛媛の久万の地に根づかれるまで様々な困難なことがおありだったと思う。それをひとつひとつ乗り越えられての今日なのだろう。そして、それを支えたのは、やはりご家族の絆だったと思う。結局、「幸せ」は関係性の中にしかない。家族との関係、仕事との関係、地域との関係、そしてとりまく自然との関係・・・それらの関係をつくっていくのは、自分自身なのだ。「自分がいいところにするんだよ。」この言葉を、私自身のこれからのためにかみ締め、また九州へ行く会員の幸せを心から願った。

今回の例会は、参加した会員たちみんなにすがすがしい思い出を残してくれたと思う。最後に、甲斐さんご家族へ「お忙しい中、おじゃましました。楽しいお話、本当にありがとうございました。」



## 12月例会報告

12月3日（水）林宅で午前11時から12月例会を行いました。参加者7名。久しぶりに集まる顔もあり、大いに盛り上がりました。10月にうかがった楠先生の貴重な資料を東温市の歴史資料館で展示できないかという件について、Tさんから報告がありました。今年度展示室は予約がずっと詰まっています、もしできるとしたら4月以降に子供も来やすい夏休みを予約するのがいいかもしれないとのこと、ただし貴重な資料は鍵付きのガラスの陳列棚に限られるとのこと、歴史資料館のスタッフは人数が少ないので、積極的に楠先生を訪ね、準備をすることは期待できないということでしたので、懸案事項となりました。

11月にうかがった甲斐工房の甲斐芳子さんから届いた手紙や冊子を回覧しました。メンバーの一人が購入した醤油さしの醤油だれが全くなく極めて調子がいい、甲斐さんの著書に感激した、水曜日で定休日だった甲斐さんのお嬢さんのレストランにぜひ行きたいなどの声が聞かれました。そのあと、東京に引っ越していったくらしの学習会でもおなじみのヒラさんと一人ずつパソコンでテレビ電話を楽しみました。時間を気にすることなく、画面に映るヒラさんを間近に感じながら（同時にこちらの映像もヒラさんに届いているんですが）心おきなく話すことができました。また、総会の日程が1月7日水曜日午前11時からと決まりました。

例会後、忘年会となりました。Tさんのお母さんが市？の指導を受け作った手作りワインと、Kさんが持ってきてくださった中国通貨市のワインに合わせる料理ということで、リクエストがあって準備したチーズフォンデュをメインに、それぞれが持ち寄った料理に舌鼓を打ちました。青いトマトのフライ、牡蠣の自家製燻製、ますの炭火焼、赤飯、グラタン風料理等などさすがは主婦の集まりというものでした。私がテレビの料理番組で見た北京ダック風チキンも好評でした。サンドイッチブレッドを1枚ずつ麺棒で押し広げてつくった皮にテンメンジャンとマーマレードを同量まぜあわせた味噌を塗って、その上にねぎときゅうりの細切りをのせ、鶏肉をカラッとソテーしたものを細切りにしたものをのせて、巻いて食べるというものです。個人的には味噌はもう少しからい方がいいですが、簡単にできるので、機会があったらお試しください。（T・H）

## 政府（行政）を選ぶ権利と義務

アメリカ合衆国、第三代大統領ジェファーソンは独立宣言の中で「すべての人は平等で不可譲の人権を持っている。それを守る人々の同意で政府が作られる。もし政府がこの目的を損なう時、人々はその政府を廃止し、よりよい政府を選ぶ権利と義務を持つ……」と言っています。私はこの中で特に「平等で不可譲の人権」及び「政府を選ぶ権利」という言葉に心をひかれます。

今年は何年か一度のアメリカ大統領選挙の年でした。共和党のマケイン氏(白人候補)を破って民主党のオバマ氏(47歳)が次期大統領に就任することになりました。これは米国民が平等な人権を守る権利と義務を行使した結果だと思えます。オバマ大統領誕生は、基本的人権は他に譲ることはできず、また譲られるものでもないという事と、それを守ることをしない政府(行政)は廃止して、それを守る政府を選ぶ権利と共に義務があるということ、米国民が示した歴史的な出来事だと思えます。

我が国の憲法も、又この理念を基本として国民の幸福の増進を求めていると思えますが、昨今の政治は高齢者も若者も子供たちの未来も不安材料ばかり、金融危機・財政赤字・年金制度・食糧問題・失業率など問題が山積しています。福沢諭吉の心訓に「世の中で一番楽しく立派なことは、一生涯を貫く仕事を持つということです」と「世の中で一番さびしいことは、する仕事のないことです」と言っています。働きたくても仕事がない、毎年3万人以上の自殺者が10年も続くという現状をどう打開していくのか、為政者は他を思いやる心と共に、育て、守

り、行使すべきことがある事を、今こそ心すべきであると思います。

さて私たちにとって一番身近な問題に視点を移すと、東温市も合併して四年になり二期目の市議会議員の選挙が10月26日に行われました。議員定数も24人から6人減の18人になり激戦となりましたが、旧川内町が善戦して立候補者全員当選し、落選者は旧重信町だけという結果になりました。これを見ても合併当時のしこりというか地域意識が薄れてきたということでしょう。議員も、ほぼ互角になりましたから議会も活性化するでしょう。これからは一つの東温市として、市内全域に注意し「我田引水」でなく、住民生活の平等を期するようお願いのものです。また今回の選挙で一番うれしいことは、女性議員が3人（現職2人・新人一人）誕生したことです。3議席を確保したということは「議案提案権」ができたということで、大きな前進です。主義主張は違っても東温市をよくしようという思いは同じだと思います。男性にはない女性の視点で一致団結して、市民の暮らしや、福祉、子供たちを守るために頑張っていたいただきたいものです。そして行政側と議会は車の両輪であることを肝に銘じて、住民の負託にこたえる働きをしてほしいものです。

最後に女性議員（3人）のパワーで、議会が形式より実のある論議を行う場になるよう、これからの活動を期待しております。

平成20年12月10日

諸伏静江

## なぜ増える罪人

今、テレビ新聞週刊誌の話題になっている小泉毅容疑者、自分の犯した罪を正当化するかのような顔を隠す事もなく姿をさらけ出している。二人の親から待ち望んでこの世に生まれ、小中高と成績もよく大学にまで行かせてもらった人間が、人としての道を外れ、無差別殺人という行動にでたのはなぜだろう。

私が1か月に1回通っている愛媛病院での出来事である。ある日3時が予約だったのでぎりぎりに待合にいくと、私が座った前に、四人程の男性が皆でくっついて座っている。

父親でも悪いので兄弟が連れてきたのかなあ。父親らしい人はいない。兄弟の一人が病気なのかなあ。それにしても家族皆が助け合って素晴らしい家族だなあ。等と想像豊かに考えをふくらませて自分の順番を待った。

私の診察は、血圧と心音だけなので五分くらいで終わり外に出ると、MAさんと呼ばれ男性四人がいっせいに立ち診察室へと向かった。へえ、想像していたことがひっくり返った。一番若い元気そうな男性の手に手錠がはめられタオルを掛け、後にはお縄がベルトにかけられ、それを一人の男性がしっかり持っている。

愛媛病院は刑務所が近いので、こうして一人に何人もがついて連れて来るのだろう。と私なりに理解はしたが、何故一般の診察室に来るのだろうと疑問を持った。次回の時に医師にそれとなく聞いてみると、刑務所内に医務室があり医師も看護婦もいるけど、専門になると割当てがあるのよ。「先生怖くないですか」と聞き返すと、怖いよ。だからああして四人もが連れて来るのよ。と言ってくれた。

それで終ればいいものを、「先生、人様の前にああして手錠にお縄とはちょっと人権問題では」と聞くと、それは考えが違くと注意された。悪い事をして刑務所に入っている以上普通の人ではないよ。それ以上は黙って下がったが、見奈良の刑務所には、今千人もの罪人が入っているそうだ。罪はいろいろで、交通事故から人殺しまで自分の犯した事について、その償いや反省で毎日を暮らしている事だと思うが、自分の犯した罪について、小泉容疑者の様に正当化する様では世の中暗い事ばかりになってしまう。

私方にも小学6年、3年、1年と男の孫がいて、今は素直に学校生活を送っているが、いつどこでどんな理由で暴力や暴言が起こり、悪い道へと進むかもしれないと、人事では済まされない世の中になっている。

先ず家庭で信頼関係をしっかり築き、しっかり話し合い、自分の味方がいる事を信じさせ、悪い事をすれば親や兄弟が泣き、人様に迷惑が掛る事を教え、育てる事が大切だと思う。

小泉容疑者は親とも音信不通だし友達もいなかった様子。人間孤独になると一つの方向しか見えず、自分が考えている事も行動も誰に注意される事もなく突き進んでしまった結果が今度の事件に思えてならない。又格差社会で仕事が思う様に見つからない事も原因だと思う。

(S a · K)

## 年の瀬に

今年は12月の初旬から、喪中につき・・・と書かれた葉書が、毎日のように届いた。父が母がという内容の他に、夫が妻がと書かれたものもあり、年の瀬に、改めて自分の家族の健康を深く願う。

還暦といわれる年齢を待たずに、この世から肉体が無くなった夫を想う友人は、今年の年の瀬をどう過ごすのだろうか。いつも、一緒にいた夫婦だったと記憶している。学生時代に知り合い、彼女は社会に出ることなく家庭に入った。会うと、いつも、夫婦が一緒に。私達の仲間の会にも、唯一夫婦での参加だった。

私達夫婦はどうだろう。夫との時間をどう使ってきたのか。休日、夫はゴルフに出かける。夫がゴルフを始めたばかりの頃は、私一人の休日の過ごし方で悩んだ。子供達もそれぞれに時間を使うようになった時、一人取り残されて、とても寂しかった。心細かった。私たち夫婦には共通の趣味がないことにも悩んだ。私が好きな映画も美術館めぐりも夫には興味が無い。本の趣味も違う。これ以上は無理だと、同じ空間を夫と持とうという努力の限界を認識して、自分だけの仲間を持つことのためらいがなくなったとき、取り残されたような孤独感や寂しさが消えた。今になると、笑い話のようだが、配偶者という関係の人がいたとしても、人は所詮一人だと、自分に言いきかせた。私にとって、夫婦別々に趣味を持つことは、それほどに決心がいることだった。

健康に気を使う夫は、1年半前から、毎日1時間のウォーキングをしている。当初、私に、心と体の余裕があるときだけ、週に1回程度、同行していた。それが、週、3日になり、今は、夕食後、1時間のウォーキングが夫婦の日課になった。私と夫、共通空間共有のウォーキングは、毎日歩くようになって、4ヶ月が過ぎた。

仕事を終えた夫が、空に一際、輝く星が二つあるからと言った日は、夕食を急いですませた。お月様と光り輝く金星と木星の美しさの話題で、いつもより長く歩いた。先日は、地球と月が一年中で一番近くになる満月のお月様を二人で見た。夜のウォーキングは寒くなったけれど、個人宅に飾られた電飾に、偶然出くわし、青色の美しさにしばし見とれて、夫との共有時間を楽しんでいる。

昨日、夫はゴルフの日。決して、予定の変更は無いはずなのに、松山市内を歩いてみようと言った。松山城の近くに車を止めて、二の丸の方からお城に上がり、ロープウェイ街に下り、そのまま、護国神社、道後温泉本館、道後商店街、大街道と日中ウォーキングに挑戦した。3時間は歩いた計算になるが、ゆっくりとしたペースの会話と散歩なので苦にならなかった。ゴルフの予定変更は、今まで皆無だったので、お正月に予定が詰まったための申し訳に誘ったという予感はあるが、以前のような、空虚な孤独感を味わうことは無い。夫の気配りが素直にうれしい。そ

して、自分だけの時間を夫に邪魔されない心地よさを感じる自分がいる。私達夫婦はお互いの個性をやっと尊重できる関係になれたと思う。

しかし、私達夫婦にも必ず訪れる“その日”。今は考えられない現実が必ずあると、友人から教わった。“その日”をどう迎えられるかわからない。突然かもしれないし、永く一緒に年を重ねられるかもしれない。しかし、確実に“その日”はやってくる。

(M T)

### 日本語ボランティア講座に参加して

愛媛大学医学部の留学生の人たちにボランティアで日本語を教えるための講座に参加しました。当初、東温市内の人の参加が多くあると予想をしていたようですが、一回目は少しの人数でした。二回目は市内の人が6名になり、中には英語の勉強を続けている人が数人いました。留学生と聞くと、つい、英語を使って日本語を教えるとの勘違いがありますが、媒介語は日本語を理解する時に、時としてよくないことになるようです。

日本語は日本語で積み上げていくことが日本語の微妙な意味を理解する一番の方法だそうです。

講座の受講前に留学生と聞いてどの国の人が多いのかを考えた時に、英語圏の人が多かっと思っていた事も誤解でした。中国からのそして、韓国からの留学生の数がとても多いのです。母語としての英語を話す人が医学部の留学生には少ないのですが、彼らは英語を医学部内で使っています。ですから、私達もサポート時、媒介語は、なるべく使わないけれども、使用する教科書は英語で説明がされているものに決まりました。

講座は日本語教育の内容は少なく、医学部のサポートに入る心構えのお話の方が多かったのですが、日本語教育に興味を持ち、少しずつ、勉強を重ねていこうという方向で講座は終了しました。

日本語教育と国語教育の違いや愛媛県内の日本語勉強会のことも理解できた講座でした。県内には、外国人に日本語を教えている団体がたくさんありますが、東温市内にはありません。市内に住む母語が日本語でない人たちは、何処で支援を受けているのだろうか、気になっています。

(M T)

## 雑感

十二月に入ってもまだまだ我が家の北の低い山々は秋の趣を残しています。今年は紅葉を例年より長く楽しむことが出来ました。特に沢山の“赤”が様々な表情を見せてくれました。庭の隅の小さな楓も例年になく鮮やかな紅に染まりました。

昨年の夏頃からサブプライムローンがらみの金融不安が囂られていました。それに対して日本政府も金融関係者も日本への影響は少ないとの発言を繰り返してきました。しかし一旦導火線に点火された火種は確実に爆薬に向かって燃え続けていたようで、今年九月のリーマン・ブラザーズの破綻以来、世界中が百年に一度といわれる金融危機に見舞われています。アメリカではついにFRB(連邦準備(制度)理事会)が初のゼロ金利政策を決断し、政策金利を0~0.25%に下げ、数日後には日銀も0.1%に下げました。為替レートも急激に円高に移行し、日本を代表する大企業が次々に業績不振を理由に、非正規社員の人員整理、新規雇用の内定取り消し、国内外の工場や店舗の縮小、閉鎖と大変な年の瀬を迎えています。多くの方が仕事だけでなく住む所さえ失っています。

このような非常時に定額給付金は如何なものなのでしょう。二兆円ものお金です。もっと有効な使い道はないのでしょうか。国民の血税を使用するのです。多くの省庁や独立行政法人での多額の無駄遣いが露呈している昨今、費用対効果を考えることは当然のことですが、行政は時としてそれを度外視しなければならない場面があると思うのです。その最も重要な場面は国民の命と、安心して安全な生活を守ることです。それを基本に考えれば自ずと優先順位は出てくる筈です。

総理の漢字の読み間違いや失言が取り沙汰されKY(漢字読めない、空気読めない、解散やれない)等と揶揄されています。もちろん漢字は正しく読めるに越したことはありませんし、失言もしないほうが良いことは言うまでもありません。しかし、常につらい立場の人を最優先に守り抜く姿勢が実感できれば、漢字の読み間違いや失言は御愛嬌で赦されるでしょう。そうは思えないところに苛立ちの根っこが有ることに気付いて欲しいものです。市場原理主義(全てを市場に委

ねれば公平さと繁栄が約束され、市場へのいかなる干渉も社会的幸福の減少に繋がるとする思想的立場)を見直すべき時が来ている様に思えます。

和歌山県立博物館が大阪の小学生が発見した甲殻類の化石を新種と認定し、小学生の名前から学名をホプロパリア・ナツミアエとしたことを発表しました。昨年の自然観察会に父親と参加していた奈津美ちゃんが見つけたものだそうです。

そんなワクワクするニュースとは反対に愛媛県立博物館は平成21年3月31日で閉館し、愛媛県総合科学博物館に統合されることになりました。1月4日からは移転の為に休館するそうですから実質的には今年いっぱい閉館です。ニュース番組で創設期の中心的存在だった楠先生が「私の命の次に大切な博物館です。」とおっしゃった時の苦渋に満ちた顔が忘れられません。つい最近、くらしの学習会のメンバーと一緒に伺った時には少年の様な笑顔で説明して下さいました。

来館者の減少が閉館、統合の理由です。テレビゲームやパソコンなど楽しみが溢れている現在、地味な存在である博物館へ足を運ぶ人が減少することは容易に想像できます。それに対して県は博物館の存在意義を認め、皆が興味を持つ様に腐心したでしょうか？残念ながらノーとしか言えません。ホームページひとつ見ても来てもらいたいという熱意が感じられません。

親をはじめ全ての大人たち、特に行政が子供たちの心を豊かに育むことに関心を持たなくなってしまったということなのでしょう。

以前から、子供たちの個食が問題になっていますが、今、病院では人手不足から乳児のミルクの一人飲みが問題視されているようです。周りの大人にしっかり見守られ、抱きしめられて育つ。すべての子供達がそんな当たり前の幸せを感じながら成長することのできる世の中であって欲しいものです。

そんな世情の結果、と言うのは短絡的過ぎるでしょうが、普通の学生、生徒や主婦にまで大麻などの薬物汚染が広がり問題になっています。飲酒運転による罰則が厳しくなると逃げるための引きずり殺害事件も相次いでいます。

「化石」といえばポーランドのポズナニで開催された、京都議定書後の地球温

暖化対策を話し合う COP14 (国連気候変動枠組み条約第 14 回締約国会議) では日本は連日「本日の化石賞」という不名誉な賞を受賞してしまいました。この賞は 1999 年ドイツのボンで開催された COP5 以来、気候変動アクションネットワーク (CAN) という NGO 団体が会期中毎日、各国の地球温暖化防止交渉に臨む姿勢を評価し授与しています。「化石」とは化石燃料を意味するとともに、化石のような古い考え方をしているという意味があるそうです。ちなみに日本は過去 48 回受賞しています。

地球の温暖化を何とかしなくてはと各国が知恵を絞っている今、どうも太陽の元気が無いようだとの心配が起きています。太陽活動の指標である黒点がいっこうに増える気配が無いというのです。京都大学、太陽物理学の柴田一成教授は、このまま黒点が少ない状態が続くと地球に寒冷化の恐れがある、としています。

また、伐採、乱獲、環境汚染、温暖化の影響で世界中の哺乳類の 25% が絶滅危機に陥っている (国際自然保護連合—IUCN) とされる一方、かつてアオコに覆われ、汚れた湖の代表格だった長野県の諏訪湖では 30 年間で一千億円を投じて下水道整備をしたことにより水質は向上したけれども植物プランクトンの増殖が抑えられた結果、魚のえさの動物プランクトンが減少しワカサギ、エビ、アユが減っているといえます。

自然は、人間の考えも及ばないところで絶妙なバランスをとりながら豊かさを保ってきたに違いありません。長い間かけて壊してきた自然を人間の知恵で取り戻すのは生半可な覚悟では無理だと痛感します。

いよいよ来年五月から裁判員制度が実施される予定です。「私」や「あなた」の感覚が「裁判」に反映されることで国民一人一人が司法への信頼や理解を深め分かりやすい裁判を実施していくための制度だとされています。しかしひとたび裁判員に選ばれるとなかなか辞退するのは困難なようです。覚悟を持ってその職を選んだわけではない一般人が、人を裁いた後の心の負担、守秘義務という未だ嘗て経験したことのない枷に耐えられるのでしょうか。今はただ選ばれないよう祈るのみです。

七月には広辞苑、岩波古語辞典を執筆、編纂し、「日本語練習帳」がベストセラーになった大野晋氏が亡くなりました。

九月には社会評論家、大宅壮一氏の“テレビは一億総白痴化を助長する”との論に対して、“日本の素顔”などのドキュメンタリー番組を通してテレビにできることを模索し続けたプロデューサー吉田直哉氏が亡くなりました。

十月には大江健三郎氏、小田実氏らとともに呼びかけ人となり「九条の会」を結成し日本の良心と評された加藤周一氏が亡くなりました。

十一月にはジャーナリストの筑紫哲也氏が亡くなりました。

日本の大切な北極星のような方々でした。

この秋、私はくらしの学習会のおかげで、初代の代表の丸井さんとの再会、そして念願だった久万高原町の甲斐さんご一家、ご自宅で博物館を開いていらっしゃる楠先生にお目にかかる機会に恵まれました。どなたも笑顔が素晴らしかったことが忘れられません。本物の生活を実践しておられる方だけが持つ清々しく、力強い笑顔でした。

そしてテレビではノーベル賞に輝く偉大な研究者の笑顔に接することができました。特に益川博士の言動には心がほっこりと和みました。

“CHANGE”を掲げるバラク・オバマ氏がアメリカ初のアフリカ系の大統領に選ばれた今年の漢字は“変”。そんな生易しい一年ではなかった、と思いました。しかし、“変”には“乱れる”という意味があり、特に旧字の“變”は神との誓いを破るという意味である(白川静 常用字解)と知り納得しています。

我が家の北に連なる低い山々のふもとに三熊野神社はあります。神社の裏の小径を、様々な楓や色とりどりの山茶花などを愛でながら少し東に進むと、何にも遮られることなく正面に石鎚山系が現れます。冬の冴えわたる靄空に映える雪化粧をした山並みの美しさは息をのむほどです。歩いて、ほんの10分足らずでこのような素晴らしい景色に出逢うことができる幸せに感謝しています。

来年こそ世界中の子供たちが穏やかで幸せな日々を過ごすことができます様に!!

(K.O.)

## 普段着の運動会

「このズボンの方が速く走れるんよ。」「手をこう振る方が速いけん、この服ではいかん。」「草履はいかん、靴の方が速いんよ。」

運動会を間近に控えた10月。5歳の息子の頭の中は、かけっこで一番になることでいっぱいでした。幼稚園の迎えのとき、走って抱きついてくるのは一番になれた日。そうでない日はとぼとぼと歩き、半分べそをかいていました。

そして迎えた運動会当日。2回目のかけっこで1番になれました！でも、本来ならば、かけっこは1回です。なぜ息子に2回目があったかといいますと、1回目に3番になってしまっただけで悔しくて泣いていたなら、先生が最後の組に息子を加えてくれたからです。子どもの個性やその時の気持ちに寄りそい、配慮してくださったのでしょ。息子にとっては、大満足の運動会になりました。

ところで、息子の通っている幼稚園には制服がありません。体操服もありません。決まった靴もありません。ですから、子どもたちは皆、普段着で運動会に参加します。体操服がないために選ぶチャンスを得た子どもたちは、帽子をかぶったりかぶらなかつたり、ジーパンにしたり、フリルのスカートをはいたりと思いつきの格好でやってきます。運動場はとってもカラフル。

ちなみに、我が息子がかけっこで一番になったとき、袖なしの下着に星の模様のコーデュロイのズボンという出で立ちでした。家からは長袖で出かけたのですが、幼稚園に着いてから脱いだようです。

今年、運動会までの日々を共に過ごして、行動に合わせて服を選べるようになったことに息子の成長を見ました。また、悔しくて泣いている息子に、もう一度チャンスをくださった先生に、子どもに寄りそ教育の姿を学びました。最後に1番で走ってきた下着姿の息子の姿を見つけたとき、下着姿は恥ずかしいとか、かけっこは1回という自分の思い込みに気づかされ、目からウロコが落ちる思いでした。思い込みというのは、暮らしの中の他のどんなことにも通じていて、私たちを縛っているもの。できるだけ少なくして、

しなやかに生きてゆきたいものです。(T.S)



### 甲斐工房レストランに行ってみて

12月14日夫の誕生日に、ふと甲斐工房のレストランでの昼食を思い立ち、電話をしてみた。「今日は、レストランやっぺいらっぺいしますか。雪なんか降っていませんよね。道は大丈夫でしょうか。」シェフは明るい声で、「もちろんやっぺいしています。道は少しゆるいですが大丈夫ですよ。」と。「じゃ、予約二人お願いします。」12時の予約なので、家を11時ちょっとすぎに出て、夫の運転で甲斐さんのレストランへ。「今日は、夫の誕生日なんです。前に来た時定休日だったので。いつか来たいと思っていたのでよかったです。」とパティシエのお嬢さんに伝えた。まきストーブの火のやさしい暖かさのなか、4種あるメインディッシュの中から、オニオンスープがけのハンバーグとカレーのフリッターサラダ添えを選んだ。キッシュとおいしい野菜の前菜に続き、スープ、メインディッシュが出てきた。どちらもそれぞれ甲斐工房製の木製お椀とお皿にのっていた。器が料理をうまく引き立てている。木が好きな夫は大喜び。デジカメの被写体に事欠かない。最後のコーヒーももちろん木製カップ。おなかがいっぱいになったので、デザートは頼まなかったが、私が今日は夫の誕生日だといったのをお嬢さんが気にかけてくださり、なんとデザートをサービスしてくださったのだ。しかも夫の方にはケーキに火のついたろうそくが1本。大感激だった。おいしい料理と心温まるおもてなしに、おなかも心も満たされて、大いに幸せを感じた。

木製のお皿と例の醤油さしを求めて、甲斐さんのお宅の方にかがう。木製のお皿は全くなかった。11月にうかがった後、バタバタと売ってしまったとのこと。醤油さしもなかった。結局ドリップ式コーヒーの器具を購入した。そのあと、芳子さんが仕事場を夫のためにわざわざ開けてみせてくださった。ここでも、夫の誕生日だということで、芳子さんの塗ったお箸をいただいていた。いい誕生祝いになった。甲斐さん一家に感謝！(T・H)

## 神戸ルミナリエ

今年で14回目になる神戸ルミナリエ…12/4～12/15の12日間点灯された。

私は、今年初めて、旅行会社の日帰りバスツアーに参加しルミナリエを見てきました。阪神・淡路大震災犠牲者への鎮魂を込めて1995年から始まったこの光の催し。私が参加した12/6の土曜日は、全国各地からバスツアーで来た人たちや、地元の人たちで大行列をなし、元町の大丸前から三宮のルミナリエ会場まで延々と連なっていました。折しもこの日は、神戸に今年初めての雪が舞う寒い日となり、風も時折吹き小さな子供やお年寄りには辛いルミナリエまでの行進でした。

約90分、少し進んでは停止、を繰り返してやっとルミナリエの玄関口であるフロントーネが見えた時は、それまでの待ち時間が感動を倍増させたと思われるような溜息と叫びがあちこちから聞こえてきました。

私も同様に感動を覚え、寒さでカチカチになった体中の力がふっと抜けていくのを感じました。バスの出発時間を気にしながら270mの光のトンネルを出来るだけゆっくり進みました。☆光は希望☆…輝く美しい光を見て歩くうちに私は気力が体内にたまってくるのを感じていました。

最終地点の東遊園地（神戸市役所前）につくと『光の巣』と名付けられたサークル状の光の装飾がありました。そこには、震災犠牲者に捧げられる歌声が流され参加者が最後にさらなる光に包まれる瞬間が待っていました。

私は、今更ながら神戸ルミナリエの持つ意味を理解しました。そして、年に10数日間の光の装飾はやはり神戸にこそ相応しいと思ひ、資金難で開催が危ぶまれるルミナリエ存続を願い地元の団体が呼びかけている“100円募金”に参加しました。

帰路のバスでも目を閉じるとルミナリエの光が、圧倒的な残像として残っていました。

神戸ルミナリエ～今年のテーマは {光のインフィニート}

時を表すシンボルである光とイタリア語で無限を意味するインフィニートをかけあわせてテーマにしたそうです。神戸市民の祈りと願いがこのテーマに込められたのでしょうか。

神戸から帰って数日後11日の朝日新聞「声」欄に、神戸市民の神戸市議会に対する怒りの投書があった。市議会が財政難で自粛していた海外視察を復活し12月に次いで来年1月にも実施するというが、1回の公費が1千万円らしい。名目は「世界的な視野の勉強」投書には、社会基盤も制度も違う海外より、国内で見習うべき自治体を視察した方がよっ

ぼど役に立つし、視察費用をルミナリエに回せばよっぽど神戸の街が明るくなる、とある。国政にしても、市政にしても、国民や市民感情と議会は何故こう乖離するのだろうか。

(R.D)

## お知らせ

・総会のお知らせ

1月7日(水) 午前11時から 総会 林宅にて

2008年度会計報告 2009年度活動計画 など

総会后一品持ち寄りで新年会を行います。多数の方の参加をお待ちしております。



・読者の声・投稿などお待ちしております。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000 円/年 購読会員 1000 円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610—5—21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089—964—6956(林)

E-mail: [kt-hayashi@nifty.com](mailto:kt-hayashi@nifty.com)

## 編集後記

暗いニュースが続く年の瀬となりました。大企業のリストラの話を聞くと、一応社会人になってホッとしていたのが、息子たちの今後は大丈夫だろうかとにわかに心配になってきました。何も動けない今の政府は批判もしたくなりますが、では一体どうあったらいいのかというものが見えてこないのです。世界の複雑に絡み合った現実からは単純明快な答えはないということでしょう。仕事上いろいろな国の人と接していますが、日本だけいいなんていうこともあり得ないし、他国だけ悪いということもあり得ないと思います。世界中の人が、そこそこの幸せを享受できるなんてことは、夢のまた夢なののでしょうか。(T・H)